友達の中で安定して生活し、少しは頑張って活動に参加する子

前島要次

はじめに

自閉的傾向と情緒障害を併せ持つH男は、63年度中学部入学当初は全く集団行動がとれず連日のように物を投げる、壊す等のパニックがあった。そこで担任との１対１の指導で牛乳パックを利用した和紙作りを始め、集団から離れて生活させたら落ち着けるようになった。昨年度は担任のきめ細かな配慮のもとで集団内の指導を始め体育、農園等の学習で徐々に自分の力を出してきた。本年度は集団内での指導を継続していく中で、H男が運動場面、生活単元学習で道具を使用したり思い切りからだを使う学習に、昨年よりやや自立的に友達と一緒に頑張って活動できるようになった。この経過について述べてみたい。

１．対象児のプロフィール

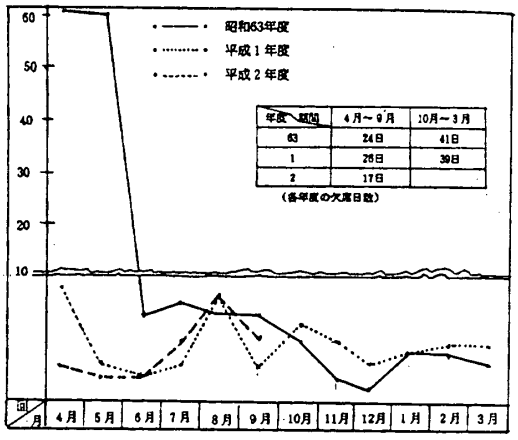
(1) 生育歴及び実態

・昭和50年10月29日生，15歳１月，中学部３年生男子，定頚４か月，発歯６か月，歩き始め11か月

・多動症候群，自閉的傾向と診断（鳥取西病院）

・保育園に３年，公立小学校に１年在籍し，昭和58年４月に本校小学部に転入学，昭和63年４月に中学部に入学し現在に至る。

・発達年齢は５歳程度。運動が高く言語，社会の分野が劣る。（55ページ，図１のＢタイプ参照。）



〔図１〕　パニックの回数の変化と欠席日

(2) 本年度までの指導の経過

表１の本年度までの指導方針と手立てにより、担任との１対１の指導から集団参加を目指した指導へと移行していった。その変容は以下に示す通りである。

〔表１〕　本年度までの指導方針

第Ⅰ期（Ｓ63.4～Ｈ1.3）
〈指導方針〉
○集団から離し担任との１対１の関わりの中でラポートを育て出来る事を増し、生活全般での安定を図っていった。
〈指導の手立て〉
○要求や指示を最小限にし、H男の行動を可能な限り許容した。
○牛乳パックを利用した和紙作りを通して仕事の意識化を図った。
○主治医に月毎の行動記録を出し、医学面からの援助を受けた。

→

第Ⅱ期（Ｈ1.4～Ｈ2.3）
〈指導方針〉
○担任が見守る中でH男が得意とする運動等の取り組みに重点を置き、活動意欲を満足させ友達との関わりを持たせ、少しずつ集団生活での情緒的安定を図っていった。
〈指導の手立て〉
○思い切り体を動かさせ、汗をかいた後の満足感を味わわせた。
○小刻みの指示と援助
○担任が中に入り友達との関わりを少しずつ持たせていった。

・第Ⅰ期（S63,4～H1，3）

図１からわかるように１学期前半はパニックが連日のように続いたが、徐々に問題行動が減少し集団から離れていれば落ち着いて生

活できるようになった。又、コーヒーを飲むことを励みに牛乳パニックを利用した和紙作りに担任と一緒に取り組み、わずかな指示だけでできるようになってきた。

・第II期（H１，４～H２，３）中学部２年生

集団での生活を４月より行ったが、図１からわかるように第Ｉ期に比べパニックの発生回数は少なかった。又、サッカー等の体育、生活単元学習で担任のきめ細かな配慮の中、友達と関わったり単純な作業の繰り返しをかなりの時間継続し、少しずつ自分の力を出し始めた。しかし、図１からわかるように３学期当初、風邪による長期欠席があった頃は落ち着かず、学習中に勝手に校外へ出てしまうようなこともあった。

２．本年度の指導方針と手立て

(1) 指導方針

ようやく担任の援助のもとで集団内で少しずつ自分の力を出し始めたH男に、本年度は体育、作業学習、生活単元学習の中のからだを思い切り使う活動に参加させていく中で、H男の活動欲求を満たし自信や成就感を持たせる。そして、その活動の中で担任との関わりを徐々に弱め、まわりの友達との関わりを深めさせたり、H男に対しての要求度を少しずつ高めていきながら自己コントロール力を育て情緒的安定を図り、集団内での安定した姿を目指していきたいと考えた。

(2) 指導の手立て

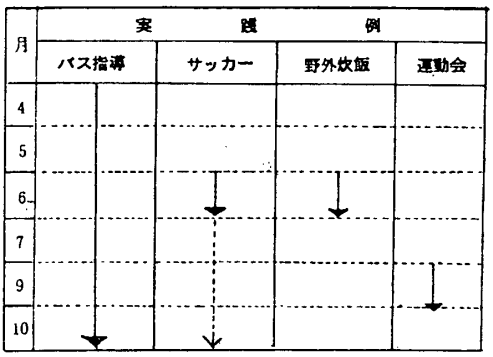
表１に示す本年度までの手立てを継続しながら、特に本年度は次の手立てに留意した。

① 良いこと、良くないことの判断を自分で少し考えさせ自己コントロール力を育てていく。

② 担任と一緒の作業から友達との共同作業の場を増やしていき、友達との関わりを深めていく。

③ 単純な作業の繰り返しや仕事量を多くし、H男にとって何をしていいかわからない状態をつくらない。又、学習中に少々の抵抗を示す時があっても、励ましたり適切な援助をすることで乗り越えさせ、少しずつふんばる力を身につけさせていく。

〔図２〕　指導の場とその時期



３．指導の実際

安定したり不安定になったりと混乱しながらも、H男が変容していった様子について、今までの指導の経過を右図に示す順を追って述べてみたい。

(1) バス指導―自己コントロールする力を少しずつ育てる―

昨年度２月頃たて続けに２回、バス内やバスを待っているお客さんを叩く事件を起し、担任や主事を中心にバス指導を継続して行ってきた。この指導では、H男が落ち着いて通学できることを目標にしているが、その過程でバス内で少々、我慢できないことがあっても自己コントロールする力を育てることもねらっている。表２はその指導の経過を具体的に示したもの

である、約束の確認やバスの座席の位置等の手だて、添乗者を変えていく指導を行った。その結果、表2に示すように徐々に落ち着きをとりもどしてきた。又、この実践できまりのよいバス通学が少しできだした上、図1からわかるように欠席日数やパニックの回数の減少を生み、H男の学校での生活リズムを確立する上で大きな要因となった。

〔表2〕　バス指導の経過

手立て		バス添乗者	H男の様子
○通学のパターンを決める。 ○バス内でH男が落ち着ける席を見つける。 ○様子をみながら1週間の内でバス添乗する日を決める。 ○乗る前にバス内の約束を確認し、きちんとできた時はほめる。 ○問題行動を起しそうになる前に、サインを出し、やめさせる。 ○添乗者と一緒の席から少しずつ離し様子をみる。	→	↑○担任 ○主事 ○クラスの他の母親 ○中学部の他の先生 ○中学部以外の先生↓	○お客さんにちょっかいが出せないように、一番後ろの座席に座らせたが落ち着きがなく、添乗者の手をさわったり、席を動こうとした。 ○添乗の回数が増すにつれ、目で合図をするだけで落ち着きをとりもどした。母親が一緒の場合でも同様に、目で合図するだけできまりよくできだした。 ○H男の方から「バスの中ではいい子にする」等と担任に話すことがあった。 ○母親の希望で座席を一番前へ移したが、きまりよく登校することができた。 ○担任、主事以外の人が添乗する場合でも、母親と一緒に静かに席に座って登校してくることができだした。

(2) 合同体育（サッカー）による実践――力いっぱいからだを動かし汗を出す――

サッカーは運動場面の中でH男の活動欲求を満たすものとして考えている。表3に示すように本年度はH男を遠くから視野の中に入れ、少々のことなら頑張らせるようにした。友達の中でボールをけったり「サッカー頑張る」と話しかける等、自分から進んで力いっぱい取り組めた。

〔表3〕　サッカーに於ける昨年度と本年度の手立て

目標	昨年度の手立て	本年度の手立て
○ドリブルしながらシュートする。	○シュートする位置を示し、繰り返しの練習をさせる。	○先生が示範を見せた後は、友達と同じことをするように指示する。
○ゲーム中、勝手にコートを離れないでボールの動きについていく。	○声かけを多くし友達の中で何をするか明確にする。場を離れた時は必ず理由を聞きコートに返す。	○ゲーム中、ボールをけったり追いかけれた時等はほめる。場を離れようとした時は近くに行き励ます。

(3) 生活単元学習（野外炊飯）による実践―みんなと同じ場で自分も役割を果たして力いっぱい―

4月～6月と徐々に落ち着きが出だした頃、この単元に取り組んだ。からだ全体を十分使ったり、能力差に応じてみんなと一緒に活動できる場を組みやすい等の点で、この単元を運動場面以外のからだつくりの場

〔表4〕　野外炊飯に於けるH男の様子　◎昨年度との比較

題材名	H男の取り組みの様子	手立て・要因
調理台作り	◎釘が曲がりかけてもやめないで、まっすぐに直しながら最後まで打ち続けた。 ・指示された部分のペンキを最後まで塗った。	・単純作業 ・仕事量の指示
丸太の椅子作り	◎友達が切る時はしっかり支え、自分が切る時は手がしびれたというほど頑張った。	・単純作業 ・友達の激励
ついたての支柱作り	◎友達に木を支えてもらい、「手がしびれた」と言いながらも最後まで五寸釘を打った。 ◎ペンキの塗れていない部分を指摘されたが、怒ったりせず素直に最後まで塗れた。 ・きりを使うのは初めてだったが、徐々に回し方や力の入れ方がうまくなり、楽しみながら10個の穴をあけることができた。	・活動の面白さ ・先生の励まし ・新しい経験と技能の向上
ミニ炊飯	◎少しぐらい煙たくても、なべの中の肉をかきまぜたり、火吹き竹でまきに息を吹きかけて楽しんでいた。	・友達の真似

として重視した。表4はH男の取り組みの様子を示したものである。この取り組みの中で、友達の励ましに素直に応じてのこぎりを力いっぱい引いたり、釘が曲がりかけても助けを求めないで自分の力で直そうとしたり、自分の担当の箇所は最後までペンキを塗ったりする姿を見ることができ、作業態度に落ち着きがかなりあらわれ、取り組めた単元であった。

(4) 夏休みの生活の様子―調子がくずれてきた―

図1からわかるように本年度7月～8月とパニックの回数が増えたきた。担任のH男への配慮や休み中の家庭との連携が不十分であった為に、今まで積み上げたものがくずれてきた。

(5) 運動会におけるH男の様子―ふんばる・がんばる・今までの力のあらわれ―

夏休み中にかなり調子をくずし、9月当初は不安定な日が目立った。しかし、運動会の学習が進むにつれH男の情緒の安定度はよくなり、表5のような姿が見られた。

〔表5〕　運度会に於けるH男の様子

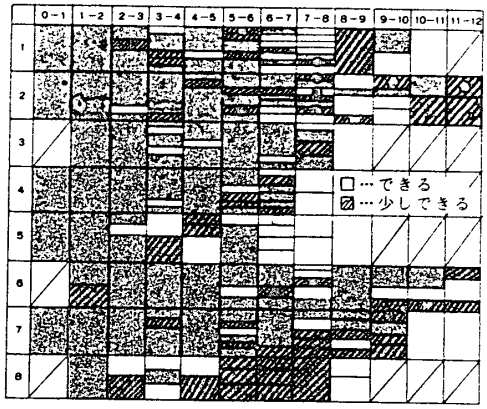
- 個人種目「みんな働き者」では友達との競争を意識しながら、重いまきを一輪車に積み、力を入れて一輪車を安定させながら、最後まで運ぶことができた。
- リレーでは同じチームの友達からきちんとバトンをもらい、かなり前を走っている友達をあきらめず全力で走り、追い抜くことができた。
- 組体操ではピラミッドで一番下の土台になり、自分の背中の上に数人乗ってもくずれたりせず、ふんばってやり遂げることができた。
- 種目練習に入る前「がんばってみる」と言い、終れば「がんばったか」と尋ね、それが認められると嬉しそうな表情を見せた。

運動会当日も息がきれるほど走ったり、組体操では土台になって頑張ったりと練習の成果が発揮できた。この運動会におけるH男の姿は、3年間の積み上げの中で培ってきた力のあらわれであり、その力がこの単元の中で具体的な変容の姿としてあらわれてきたと考える。

4．考察と今後の課題

H男に情緒の安定と集団参加を目指し運動、生活単元学習、作業学習の大きな柱を立て、3年間取り組んできた。この実践の中でH男は徐々に1対1の指導で落ち着き始める→先生と一緒なら集団の中で生活できる→集団の中で少しずつ頑張るようになると変容してきた。このことは図1に示すパニック回数の変化にもあらわれている。又、図2に示すからだの輪郭表から、からだの面の変容としてもあらわれてきている。しかし、これは夏休み中の調子のずれからもわかるように、H男に対しての格別の配慮があったこと、H男をとりまく教師集団にH男を受け入れることのできるあたたかみがあったこと等があげられる。やっと集団の中でも力を出し始めたH男に対して、今後も学校や家庭での配慮のもとに、少しでも自律的な生活ができるようにしていきたい。

〔図3〕　からだの輪郭表



（・印は10月に変容した項目）